

2023年6月18日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 2 「心を探る神」

エレミヤ17：9～10、ヘブライ4：12～13

聖書の示す救いを自分自身のこととするために本当の自分を知る必要があります。そしてそのために聖書、神さまの言葉が与えられています。教会では、聖書を「教会の依るべき唯一の正典なり」（教団信仰告白）と告白しますが、正典（キャノン）とは「基準」「規範」を意味しません。聖書が物差しとなり、自分が今どういう状態なのかを教えます。いや、自分のことは自分が一番よくわかっていると思うかもしれませんが、でも自己診断ほど危ないことはない。客観的に自分を診断してくれる物差し、基準が必要です。そのことを問3～5が教えています。

問3 何によって、あなたは自分の悲惨さに気づきますか。

答 神の律法によってです。

神さまの律法、神さまの言葉によって、わたしたちは本当の自分を知らされます。それは何よりも自分の悲惨さです。この「悲惨」と訳された言葉（エーレント）は、もともと「土地から離れる」という意味があるそうです。それは生まれ故郷や、本来のあるべき場所から離れる。何よりもそこに人間の根本的な悲惨があると教えています。今、戦争が起こっています。戦争は悲惨です。また個々の生活においても病気になり、年老いて思い通りに行かないことにみじめさを覚えることも多々あるでしょう。しかしもっと深い部分で人間は本来のあるべき場所から離れみじめな状態にあることを知らなければなりません。

もう一つの翻訳、竹森満佐一先生の翻訳を紹介しましょう。

問3 何によって、あなたは、あなたのみじめなことを、みとめることができるのですか。

答 神の律法によるのです。

この訳が示すのは、わたしたちはなかなか自分のみじめさを認めることができないということです。自分が悲惨だとは思いたくない。それよりも自分は正しい、何の問題もないと思いたいのです。先日、このような話を聞きました。教会付属の幼稚園がピアノ教室に場所を貸していました。幼稚園の都合が悪くなり教会でピアノ教室を開くことにしたところ、小さい頃からピアノ教室に通い続けていた中学生の生徒が教室をやめたのだそうです。どうしてやめたのか理由を聞くと、教会に出入りしていると周りの人に思われたくないということです。教会に行っている人は弱い人、何か問題を抱えている人と思われている。自分がそう見られたくないということです。中学生は素直にその心の内を明かしています。改めて教会は世間からそのように見られているのかと考えさせられました。ある人を教会に誘ったら「今は間に合っています」と答えたそうです。自分には問題がないと考えている、あるいはそう思いたいのでしょう。また世の中には弱いこと、問題を抱えていることを恥とする風潮があります。だから人はそれを知られまいと隠す。そのように生きている人が多いのです。

何の問題もないというのはあり得ません。怖いのは、問題をひた隠して、ある日突然その闇が現れてくることです。悲惨な事件が後を絶ちませんが、その時に周囲の人たちは決まって「普通の人だ」と言います。問題を起こすような人ではない。でもそれは問題がないように振舞っているだけであって、あるいは周囲がそれを隠しているだけであって、依然と問題はあります。神さまの言葉はその隠れた問題を明らかにします。それが例えば、創世記の樂園追放の物語、放蕩息子、迷い出た子羊のたとえ話などに表れています。それは神さまのもとを離れた罪の人間の悲惨を伝えています。その悲惨をイスラエルも体験しました。それがあのエジプトで

の奴隷生活であり、バビロニア捕囚の出来事です。人間があるべき場所にいないことがいかに悲惨であるか。そのみじめさを嫌という程体験しました。御言葉はその悲惨を伝えています。そのようにして神さまは人間の内面を深く掘り下げていくのです。

続く問4～5もその御言葉の役目を示しています。

問4 神の律法は、わたしたちに何を求めていますか。

答 それについてキリストは、マタイによる福音書22章で次のように要約して教えておられます。

『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし（、力を尽くし）て、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」

問5 あなたはこれらのことを完全に行うことができますか。

答 できません。なぜなら、わたしは神と自分の隣人を憎む方へと、生まれつき心が傾いているからです。

神さまの律法はわたしたちに愛することを教えています。けれども愛に生きられない。わたしたちは神さまを愛することも、人を愛することも完全に破綻しています。それはこの一週間の生活を振り返るだけでも明らかです。神さまに背き、自分勝手に、誰かのことよりも自分が常に最優先に生きてきました。それは自分が本来のあるべき場所にいないからです。愛の源である神さまのもとを離れた人間は愛することができません。

でもそのように御前から失われたわたしたちを神さまは探し出してくださいます。神さまの言葉がわたしたちの内面に切り込み、深く掘り下げていく。「神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな諸刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができる」（ヘブライ4：12）とあります。それは単に罪を指摘するものではありません。わたしたちをどこまでも深く探し出してくださいます。自分でも自分がどこにいるのかわからない。そのわたしを見つけ出してくださいますため、心の奥深くに隠れている本当のわたしを見つけ出してくださいますために、生ける神さまの御言葉であるイエス・キリストがこの世に来られ、十字架におかかりなられ三日目によみがえられて、失われたわたしたちを発見し、御前に回復させてくださいました。そしてご自分のものとしてくださいました。だから弱くたっていい。問題だらけでも構わない。失われていたわたしたちが今このようにして神さまの御前に共に集い礼拝を献げている。それだけで十分人生の問題は解決しています。

天の父よ。御前から失われていたわたしたちを探し出し、本来のあるべき場所、神さまの御前に立ち帰らせてくださるためにあなたは尊い独り子を世にお遣わしくくださいました。その十字架とよみがえりによりまして、わたしたちを御前に回復してくださる幸いを感謝いたします。どうぞそこに本当に健やかな自分があることに気づかせてください。主の御名によって祈ります。アーメン。